



2025年5月30日発行

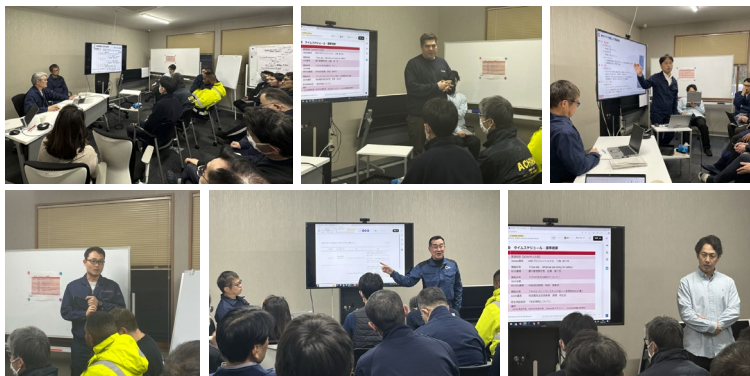
丸紅洋上風力開発株式会社では、秋田港・能代港の洋上風力発電所の運営・管理を担っております。現場では様々なHSE活動を実施しており、それらをHSE Newsletterとして発行・紹介しています。また、当社では本社においてもHSE活動に取り組んでいます。安全を最優先する会社として、本社社員もHSEの意識を持って日々の業務に取り組むことを重視しています。第3号となる本号では、2024年度下期に現場および本社で実施したHSE活動についてご紹介いたします。

2024年度下半期の活動



安全大会

秋田港・能代港の洋上風力発電所では、昨年度に引き続き安全大会を開催しました。今年度は、発電事業者の「秋田洋上風力発電株式会社（AOW）」、風車本体の運転保守業務を担う「ベスタス・ジャパン株式会社（Vestas）」、CTV運航の「Akita OW Service株式会社（AOS）」、そして当社の4社合同での開催となり、より幅広いメンバーが集まりました。大会では、各社から日々の安全活動や取り組みについて発表があり、過去のニアミス事例をもとにした意見交換も行われました。終了後は、「日頃の安全意識の高さが感じられた」「密なコミュニケーションの重要性を再認識した」「他社の安全対策を知る良い機会となった」といった講評が寄せられ、今後も4社が連携して安全でより良い現場づくりを目指していくことを確認しました。



クリックで記事を拡大表示

自社救助訓練・通報訓練

当社では、海上保安部や消防との合同訓練に加え、自社独自でも定期的な救助訓練や通報訓練を継続して実施しています。救助訓練では、新たに配属された社員や関係者も積極的に参加し、全員が救助手順や装備の取り扱いを再確認しました。風車最下部での負傷者発生を想定し、要救助者をプラットフォーム上まで引き上げ、さらにCTVへ安全に搬送する一連の流れを実践しています。また、BCP（事業継続計画）に基づき、本社と連携した通報訓練も実施しています。これは、緊急時の本社側への連絡や安否確認の手順を確認し、現場と本社が連携して迅速に対応できる体制を強化することを目的としています。



丸紅洋上風力開発株式会社

Marubeni
Offshore Wind
Development

〒100-8088

東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://mowd.jp/>

○ 普通救命講習



2024年度下期には、能代消防署のご協力のもと、当事務所にて普通救命講習を受講しました。洋上作業員はGWOなどの専門的なトレーニングを定期的に受けていますが、今回は事務所メンバーも改めて講習を受け、緊急時の対応力向上や技能の維持・リフレッシュに努めました。今後も全員が安心して働ける職場環境づくりのため、継続的な訓練・講習の機会を設けてまいります。

○ 清掃作業



当社は地域の美化活動にも積極的に参加しています。9月26日には秋田地域アダプト・プログラムに基づくクリーンアップ活動を実施し、変電所付近の国道56号沿いのごみ回収に取り組みました。これらの活動を通じて、地域の環境保全と美化に貢献し、地域社会との良好な関係構築に努めています。

○ 消防署見学・消火器訓練・通報訓練



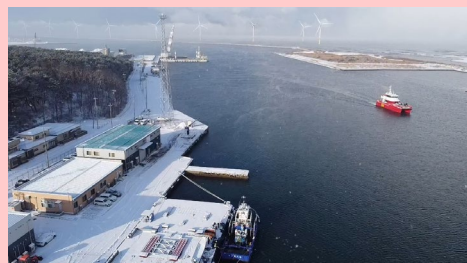
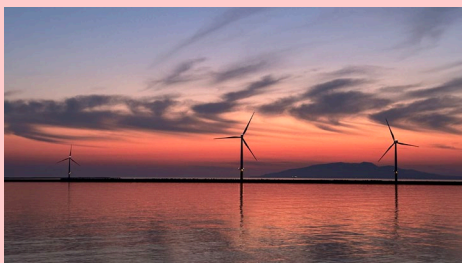
本社の従業員を対象に、丸の内消防署で防災訓練を実施しました。HSEを重視する当社の方針のもと、初動対応力の向上と安全意識の高い組織文化の醸成を目的としています。訓練では、消防署員の方々による指導のもと、消防車両の見学や消火器を用いた消火体験、災害発生時の対応に関する講義や通報体験など、実践的なプログラムを実施しました。初期消火や通報の手順、電気火災防止など、緊急時に役立つ知識と対応力の習得につながりました。

○ 社内防災講習



本社従業員を対象とした社内防災講習を実施しました。初動対応力の向上や、業務中に発生しうる様々な緊急事態への適切かつ迅速な対応力の習得を目的としています。講習では、座学とビル内ツアーを組み合わせ、緊急時の連絡先や避難場所、非常食、救急箱などの安全設備の位置を確認しました。また、緊急時対応の基本知識や対応フローについても学び、安全意識の向上につながる有意義な内容となりました。今後も継続的な実施を通じて、全社員のHSE意識向上を図ってまいります。

Snapshots



北羽新報

2025年（令和7年）1月30日（

洋上風力発電

知識、経験を共有

4社垣根越え安全大会



能代港・秋田洋上風力発電所の運営・管理などに関わる4社合同の安全大会が20日、能代市日和田下の能代運輸管理事務所で開催された。洋上風力という特殊な環境で働く作業員ら約40人が一堂に集まり、洋上風力の安全規定や風車まで作業員を運ぶ輸送船（CTV）の航行管理業務など各社の経験や専門知識や経験を共有し、安全意識の向上を図った。

能代、秋田両県風力発電所では、秋田洋上風力発電（AOW）が事業を手掛けるベスタス・ジャパンが風車本体の運転保守、丸紅洋上風力開発（MOWD）が風車の基礎や海底ケーブル、送電設備の運転保守など、Akita AOW Service（AOS）がCTVの運転を担うなど、各社がそれぞれの専門性を生かして発電所の運営に携わっている。

安全大会は4社間の相互理解を深め、安全意識の向上を図る目的で昨年に続き2回目の開催。運輸管理、電気主任技術者など各社の担当者が講師を務め、洋上風力の保安規定やCTVの安全航行、緊急時対応計画などについて研修した。

ベスタス・ジャパンの三輪俊介HSE（健康・安全・環境）プロフェッショナルは、事故やヒヤリ・ハットなど安全に関わる情報を収集・整理して分析・改善につなげるセーフティ・リポーティング・システムについて説明した。

ヒヤリ・ハットの情報を共有してリスクを減らし、報告を通じて組織全体の安全文化を高めるための仕組み。企業文化の違いから生じる安全に対する認識のずれを補正するため、作業員同士で話し合うなどコミュニケーションを取ることで大事故と誤解、フレキシビリティ（柔軟性）の差も肝要で、臨機応変に対応することで改善が進む」と述べた。

危険に伴う現場では仲間同士が心を配って腹を割って話すことが安全や組織の改善につながるとし、「安全報告を徹底し解決方法を全体でシェアすることでサイト（現場）の文化ができていく。健康、安全、環

境をみんなですべていくことで洋上風力の安定運営につながる」と説明した。

研修に参加したAOWの井上聡一社長は「洋上は陸上より危険が高い。各社の基準はあるが、横のつながりを持って安全対策に取り組むことが肝要。4年度の運びではない」と気持ちを引き締めていた。

Back